令和３年６月２５日（金）１３時３０分～

交通政策審議会　海事分科会　第１３７回船員部会

【岡村労働環境技術活用推進官】　　それでは、定刻となりましたので、ただいまから交通政策審議会海事分科会第１３７回船員部会を開催させていただきます。

事務局を務めさせていただきます、海事局船員政策課の岡村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ウェブ会議により開催させていただきます。

まず初めに、ウェブ会議の操作方法についてご案内させていただきます。委員の皆様におかれましては、カメラ、マイクの通信はＯＦＦ（マークにスラッシュが入った状態）のままで、ご発言される際のみカメラ、マイクをＯＮに、ご発言が終わりましたらカメラ、マイクをＯＦＦにしていただきますようお願いいたします。

発言時以外にカメラ、マイクがＯＮの状態の方がいらっしゃいますと、通信状況が不安定になったり、回線が切れたりしてしまうおそれがございます。発言終了時にはカメラ、マイクを必ずＯＦＦにしていただくようお願いいたします。

また、傍聴者等の方々については、円滑な会議運営のため、映像、音声を拾わないよう、カメラ、マイクを常に切った状態（マークにスラッシュが入った状態）で傍聴をお願いいたします。

その他ご不明な点、映像や音声通話に不具合が生じた場合は、事前にお伝えしている事務局の緊急連絡先にてご連絡ください。

本日の船員部会は、委員及び臨時委員総員１９名中１６名のご出席となりますので、交通政策審議会令第８条第１項及び船員部会運営規則第１０条の規定による定足数を満たしておりますことをご報告申し上げます。

本日の資料につきましては、ウェブ会議となっておりますので、事前にお配りした資料をご覧ください。

それでは、議事に入りたいと思います。野川部会長、司会進行をお願いいたします。

【野川部会長】　　それでは早速、議事を進めてまいりたいと存じます。議題１の報告事項である「船員教育機関卒業生の求人・就職状況等について」、事務局よりまずご報告をお

願いいたします。

【鵜山船員教育室長】　船員教育室長の鵜山でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、お手元の資料１に基づきまして説明をいたします。

まず、１ページをご覧ください。これは、最近の５年間におけます大学、高専、海技学校、海技短大、そして海大の卒業生について、求人数、就職者数、進学者数を年度ごとにまとめたものです。括弧内の数字は女子の内数となっております。ここで、令和２年度の卒業生というものは、大学、高専については、昨年９月の乗船実習科を修了または卒業した人たちです。海大と海技短大については今年の３月の卒業、そして海技学校のうち、本科は今年の３月、乗船実習科は今年の９月の修了予定者を指しております。よって、就職に関しましては、大学と高専の場合は、一般的に就職活動時期は一昨年、令和元年の春から秋、海大、海技短大、そして海技学校の場合は、就職活動時期は昨年の令和２年の春から秋といった生徒・学生たちでございます。

このページの総括といたしましては、求人数は、前年度に比べ海上、陸上ともに減少しております。また、就職者数は、これは卒業人数にも関係するところですが、それ以上に、前年度に比べ海上、陸上ともに増加しております。その分、進学者数は前年度に比べ大幅に減少する結果となりました。

それでは、以下、詳しく見ていきたいと思います。２ページをご覧ください。これは、令和２年度における航海・機関の求人・就職状況について、教育機関別、業界別にまとめたものでございます。２つの表のうち、上の表は三級養成について、求人数の数字は延べ数で示しております。求人数は、航海と機関の割合が合計でほぼ半々となっております。外航、官公庁、水産では機関のほうが多くなっております。一方、採用数は、航海と機関の割合が合計で約６対４、若干航海のほうが多くなっております。内航、カーフェリー／旅客船で航海のほうが多くなっているという結果です。

下の表は四級養成についてのもので、求人数は実数で示しております。求人数は航海・機関の割合が合計で約６対４、採用数は航海と機関の割合が合計で約７対３という結果となりました。四級の場合、いずれも外航から水産まで全てにおいて航海のほうが多いというものでございます。

続きまして、３ページをご覧ください。これは、１ページの総括表に基づきまして、直近５年間における海上の求人・就職状況の推移について、大学、高専、海大ごとに示したものです。上の段のグラフは、求人数を延べ数で示しております。求人票のカウントの重

複を限りなく排除することを今回も試みまして、推測値というもので折れ線グラフを重ねております。下の段のグラフは、就職者数、実数で示しております。また、左側のグラフ２つは、これは外航です。求人数について、高専は前年度から大きく減少しております。この理由は、学校側が求人のない企業に問合せをするというのは無理なので、明確なところは分からないのですが、外航は隔年または不定期で求人を出す企業もあり、毎年の変動があるものと見ております。また、合計の延べ数は大きく減少しておりますけれども、推測値といったところでは若干の増加が見られております。

下の就職者数については、高専は前年度から増加。この理由は、就職者数は、求人数ではなく卒業者数に関係するものと思いますので、今年は転校や、退学する学生さんが例年より少なかったということで、結果、卒業者数が増え、就職希望者数も増えたものと見ております。また、これは、内航そしてカーフェリー／旅客船でも同じような傾向となっております。この外航就職者数は、大学が最も多い結果となり、全体の約６割を占めております。

続いて、真ん中のグラフ２つは内航です。求人数については、ここでも高専は前年度から大きく減少しております。逆に、大学と海大は増加しているというものでした。一方、下側の就職者数については、高専は前年度から大きく増加。内航就職者数は、全体として高専が最も多く、８割を占める結果となっております。また、この５年間で内航の三級養成機関に係る求人数、就職者数とも最も多い数字となっております。

右側のグラフ２つはカーフェリー／旅客船です。求人数については、ここでも高専は前年度から大幅に減少しておりますが、就職者数については、高専は前年度から増加です。カーフェリー／旅客船の就職者数は、高専が最も多く、全体の約８割という結果となりました。

このページをまとめますと、大学については、就職希望者数の約６割が外航に、約２割が内航に、約１割がカーフェリー／旅客船に就職しており、若干の内航等へのシフトが感じられところでございます。また、高専については、就職希望者数の約２割が外航、約５割が内航、約２割がカーフェリー／旅客船に就職しております。

続きまして、４ページをご覧ください。これは、同じように直近５年間における海上の求人・就職状況の推移を海技学校、海技短大ごとに示しております。上の段のグラフは３ページ同様に求人数ですが、これは実数で示しております。「共通」という水色のような棒グラフで示しておりますのは、短大、学校の指定がない状況で求人のあった数値でござい

ます。下の段のグラフは就職者数、実数で示しております。

左側２つのグラフは外航、上の求人数については、前年とほぼ同じ水準で推移。下の就職者数については、海技学校の乗船実習科から１名のみが就職という結果となりました。

真ん中の２つは内航です。上の求人数については、前年度から大きく減少しております。就職者数については、前年度から短大は横ばい、学校は減少という結果となりました。

右のグラフはカーフェリー／旅客船です。求人数、就職者数ともに前年度から若干減少です。

このページをまとめますと、特に、短大については、カーフェリーから内航への若干のシフトが感じられるところです。また、求人数については、学校よりも短大のほうが、定員数を考慮しても多くなっている結果となりました。

続いて、５ページをご覧ください。これは、直近１０年間における海上就職率の推移です。これを大学、高専、学校・短大、そして海大ごとに示しております。分母は就職希望者数としております。大学を青色で示します。このところ増加傾向にありましたが、令和２年度は一昨年並みに減少しております。就職担当者のコメントからは、学生は大手の志向が強いということ、そして、大手の海運会社でなければ、大手の陸上職に流れる傾向にあるということを聞いております。

続いて、高専を茶色で示しております。５年間連続して８割を超える海上就職率となっており、前年度にほぼ横ばいです。

海技学校、海技短大を緑色で示しております。常に９割台の後半です。内訳としましては、海技学校が９５．６％、海技短大が９９．６％という数値となりました。

最後に、海大を紫色で示しております。母数の少ないことが数値変動に大きく関係いたしますが、本年度は少し減少ということです。２６名のうち１名が陸上に就職をしております。

続いて、最後のページでございますが、６ページ目をご覧ください。これは、直近６年間における大学、高専、海技教育機構別の入学状況を示しております。大学の場合、これまでは、受験生は前年度の応募倍率を見て応募する傾向にあるとして、増加・減少を繰り返していたと見ておりました。令和３年度の応募者数は、前年度から４５名増加の１，３３２名となっております。今回、神戸大学からコメントをいただきましたが、今年度、新たに海洋政策科学部を設置し、入学試験の枠組みが見直されて、文系科目重視型入試というものを導入したことで、より幅広い応募者を獲得できたのではないかとのことです。

続いて、高専の場合、過去には自然災害による募集活動への影響、地元での海難事故といった怖いイメージ、あるいは学生募集要項に身体検査基準を掲載したことなどの理由で応募者数が下がったのではないかとのコメントをいただいたことがございました。令和３年度の応募者数は、前年度から２３名減少の２８２名となっております。今年度は、コロナ禍により、進学説明会や文化祭等の中学生相手の広報活動が十分にできなかったのが理由ではないか、また、感染リスクのある寮生活を避けた可能性も考えられるとのコメントをいただいております。

続いて、海技教育機構の場合、令和２年度の大幅な減少は、表下の注釈６にもございますとおり、小樽学校が令和３年度から小樽短大として開校するのに伴い、１年間募集を停止したこと。これに加えて、全校的に応募者が減少している。また、短大の場合は、この６年間、既卒者の応募者数が大幅に減ってきているとのコメントをいただいております。令和３年度の応募者数は、前年度から計７名減少の６３５名、応募倍率は１．６倍という結果となりました。一方で、令和３年度の入学者数については、定員が４００名のところ、実際に入学したのは３８０名です。合格者数は定員よりも多く出しておりますが、併願による辞退者等もありまして、４つの短大の入学者は定員をクリアしておりますが、３つの学校の入学者は定員に満たなかったとのことです。７校全て、応募の段階で定員を満たさないという「定員割れ」というものではなかったと聞いております。

入学者が定員に満たなかった直接的原因は、応募者数の減少と、合格基準を満たす者が少なかったことと聞いております。応募者数減少の主たる原因でございますが、コロナ禍で例年並みの募集活動ができなかったこと。少子化の影響で、近隣の多くの高校や水産系高校でも応募の段階で定員割れが起きていること。これまで合格基準を下げてまで合格させたことはなく、仮に、このようなことを行えば、結局は中途退学や他への影響があること。また、その他の要因としまして、中卒というまだ若い年代で親元を離れるので、団体生活による感染リスクを保護者が心配されたのではないか。自宅から通える高校を選んだのではないかとのコメントをいただいております。

以上のような背景には、やはり少子化があると思われます。中学生の数は、この３０年間、減少の一途と聞いておりますし、また最近では、高校進学率も緩やかに減少傾向となっております。一方、大学への進学率は年々微増の傾向にあるとも聞いております。

最後になりますが、昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響が、現在までいろいろとあります。しばらくの間、続くものと考えられます。これが今回の求人数に影響が

出ているのかどうかということについては、こちらも情報を集めているところですが、令和２年度卒業生については、今のところ影響は出ていないのではないかと。内定取消しになったということも、学校側からは特に聞いておりません。また、令和３年度の卒業見込み者への求人票として、例えば海技短大の場合、例年３月から５月ぐらいに求人票が届くようになっておりますが、今のところは昨年とほぼ同じくらいの求人が来ている状況ということを海技教育機構から聞いております。また、大学、高専についても、今年の求人に大きな変化があったという連絡はまだ届いておりません。

以上、簡単でございますが、説明を終わります。

【野川部会長】　ありがとうございました。

それでは、今回もウェブ会議でございますので、委員の皆様が同時に話し出してしまうことを避けるため､発言は私の指名の上で行っていただきます｡発言を希望されるときは、カメラとマイクをＯＮにして､「部会長」と発言いただき、私より指名がありましたら、ご自身の氏名をおっしゃった後に発言をお願いいたします。発言の際には、該当する資料のページ、記載がある箇所などを必ず述べた上でご発言をお願いいたします。

それでは、本件につきましてご質問等ございましたら、お願いいたします。

【内藤臨時委員】　部会長、よろしいでしょうか。内藤です。

【野川部会長】　はい、内藤委員、お願いいたします。

【内藤臨時委員】　ご説明ありがとうございます。内航総連、内藤でございます。今ご説明いただいたように、コロナの状況下によって、我々内航各社がウェブ会議等で学校のほうにアプローチをしながら業界の説明、会社の説明という方法を取らせていただいています。実際にご本人との面談は、海技者セミナーでこれもウェブでやらせていただいているんですが、なかなか個人の方と会社の接点が少なくなっているかと思いますので、学校のほうにも、個人の方と会社との接触、就職に関しての面接等も、できたらウェブをうまく活用できるようお願いしていきたいというふうに考えております。私どもは今回、来年度の法改正によって働き方改革、やはりコンプライアンスを守るためには船員の絶対数も必要であるというふうに理解しておりますので、ぜひとも国交省のご指導の下において、的確なる就職・採用を進めていきたいと思いますので、お願いいたします。

以上でございます。

【野川部会長】　ありがとうございました。コメントとご要望ということで承りましたが、特に事務局のほうで何かございますか。よろしいでしょうか。はい、ありがとうござ

います。

ほかにございますでしょうか。

【加藤委員】　よろしいでしょうか、加藤です。

【野川部会長】　加藤委員、お願いいたします。

【加藤委員】　ずっとこれまで働き方改革を議論させていただきました。今、内航総連からもお話しいただきましたが、労働条件を改善することは当然として、入り口も魅力的であるという形にした方がよいと思います。取りまとめを受けて、具体的にこういう入学生に来てほしいとか、就職先としてこのようにしたいということをお考えになっていることがあれば、教えていただきたい。あるいは、これからやろうとしておられることでも結構です。ぜひ何か教えていただければと思うんですが、いかがでしょうか。

【野川部会長】　働き方改革との関係で、これから新しく入ってこられる、入職される方々に対して、何か事務局として考えるところがあればということですね。いかがでしょうか。はい、お願いいたします。

【髙桒船員政策課課長補佐】　船員政策課、髙桒でございます。恐らく、新しく入ってこられる方、そして今いらっしゃる若手の船員の方も併せてということになりますが、委員ご承知のとおり、働き方改革については、様々な項目を掲げてこれから進めていく予定でございます。例えば労働時間の管理の適正化、健康の確保、そういったことに加え、一例を挙げさせていただきますと、就職に当たって求人票というものがございます。この求人票で様々な情報を提示するわけですけれども、例えば、司厨の職員が乗り込んでいるかどうか、Ｗｉ－Ｆｉ環境がどうか、あるいは女性向けの設備がきちんとなっているか、こういったこれまでなかった項目を追加していく、そんな試みをしておりますので、そういう情報で船社を判断していただく、より多様な働き方ができるところを選んでいただく、こんなことは一例としてあるのではないかと考えてございます。

【加藤委員】　民間の参加者がたくさんおられます。是非、ご意見をお聴きしながら、せっかくあれだけの取りまとめを生かしていただければと、魅力的な職場にしていただければと思っています。ぜひよろしくお願い申し上げたいと思います。

以上です。

【野川部会長】　ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

【内藤臨時委員】　部会長、よろしいでしょうか。

【野川部会長】　内藤委員、お願いします。

【内藤臨時委員】　今のお話の中で、私どもは、やはり働く場所を見える化したいということで、各社、例えばホームページであったりユーチューブで画像を上げたりということで、職場の現状を見えるような形でご案内している会社もございます。それと同時に、今お話がありました働き方、これはやはり遵法性で労働時間の管理を的確に行うということを我々は法に基づいて実行していくという内容だと思いますので、接点が見えるように、どういう働く場所であるかというのを、映像で示しておりますので、ぜひ、生徒、学生さんたちとの接点を作る場所を、映像であったり、ウェブであったりというようなことで、積極的に活用したいと思っています。

それと、船にもウェブを入れようとしているんですが、これは毎回毎回お話ししているんですが、やはり海向けの通信、港であっても３Ｇが入らないような状況なものですから、これはちょっと大きな問題になりますが、ぜひ通信網の充実というものも行政のほうでひとつご一緒に働きかけをしながらお願いしていきたいと思います。

以上です。

【野川部会長】　ありがとうございます。最後の点に関しては、以前たしか総務省の方にも来ていただいて、特に海の上での通信環境の整備・改善については少しご意見を承ったところですが、事務局いかがでしょうか、今の内藤委員のご意見に対して。

【髙桒船員政策課課長補佐】　ありがとうございます。１点目の、映像等でしっかりアピールをされているというところにつきましては、おっしゃるとおり、今の学生さんは、例えばツイッター、ユーチューブなど、以前なかったものを含めて、様々なチャネルを会社を選ぶ際の参考にされていると思います。そういったものは今後どんどん進んでいくと思いますので、まだ取り組まれていない船社さんについては、さらにやっていただきたいと思いますし、また、学校における情報提供でも、そういったことを意識しながらされていくのかな、こんなふうに思ってございます。

２点目でございますけれども、こちらはいろいろな課題がありますので、一朝一夕にということにはまいりません。従前ご議論いただいた内容を踏まえまして、引き続き総務省と連携して進めてまいりたいと存じます。

【野川部会長】　ありがとうございました。若干の課題はありますが、ぜひ、この船員養成機関に多くの若者が入っていって、かつ、船に乗りたいという意欲を持つことができるような対応というのもいろいろとあると思いますので、この今日ご報告いただいた資料を踏まえて、官民一体となって、船員教育・養成の改善に努めていっていただきたいとい

うふうに思います。

ほかにございますでしょうか、この件に関して。

【松浦臨時委員】　　よろしいでしょうか。

【野川部会長】　　松浦委員、どうぞ。

【松浦臨時委員】　　最後の６ページのところの船員教育機関入学状況なんですけれども、先ほど説明をされたんですが、ちょっと違和感を感じたので質問させていただくんですが。説明の中で、海技教育機構の定員と合格者のところで、何か合格基準を満たさない方が多かったとか、合格基準を下げてまで合格者を出すのはとかいうような説明があったんですけど、何かそれがちょっと違和感を感じまして。ただ、求人が多くて、最終的に卒業生も多く、就職率も多いということを考えると、せっかく入学定員が増えて４００になったのに３８０というのはなぜなんだろうなとちょっと不思議に感じています。

そこで、その辺のところについて若干説明をいただければということと、あと、先ほど説明の中で出てこなかったんですが、合格を出した数字と辞退者の数が分かると、大体のバランスみたいなものが分かると思うのですが、数字が分かれば教えていただけますでしょうか。

【野川部会長】　　２点でございますね。海技教育機構については、入学定員を４００名に増やしたけれども、入学者が３８０人で、それを満たしていないということについて、もう少し分かりやすい説明が欲しいというのが１点。それからもう１点は、合格した中で辞退者がどれくらいいたのかというようなことがもし分かれば、教えてほしいというようなことでしたが、いかがでしょうか。お願いします。

【鵜山船員教育室長】　　ご質問ありがとうございます。まず１つ目でございます。今回は、６ページにございますとおり、入学定員が合計４００名のところ、応募者数が６３５名ということでございました。繰り返しになりますが、各校とも応募の段階で定員割れというのは７校とも起こっておりません。また、定員を満たすように、上から順番に合格を出すということはしておりません。あくまでも、ほかの一般の高校も同じだと思いますが、足切り点という言い方もあるのかもしれませんが、合格基準がございまして、その合格基準を上回る人たちは合格。学校によっては、合格者数が定員を上回っているのか、下回っているのかはそれぞれあると思いますが、合格基準というものを設けて、定員を満たすために故意に下げたりはせず、あくまでもしっかりと基準を満たした者を合格としていると聞いております。

令和３年度入学定員４００名のところ､合計で合格者は４１３名いたと聞いております。そうなりますと、入学した実際の数は３８０名ですので、合格したにもかかわらず、いわゆる辞退したという人数が３３名いたという結果になります。この辞退した理由が、海技教育機構の学校ですと、面接試験もございますので、その中で、１つには併願によるものということがあったということは聞いておりますが、辞退した３３名全員が併願によるものなのかどうかというのは分かりません。また、これまで毎年何名ぐらい辞退しているのかというと、大体３０名から４０名ぐらい、多いときには５０名近くあったと聞いておりますので、今回、特に多いものではありませんけれども、辞退者がいたということです。ただし、合格基準はしっかりと守って、その結果、２０名定員に満たなかったと聞いております。

以上です。

【野川部会長】　ありがとうございました。要するに、最低限の能力もないような人間でも､人数を満たすために入れるということはしていないということと､それから辞退者、今伺っていると４１３人で３８０人入学ですから、合格者のうちの辞退者は８％ぐらいですね。大体例年それぐらいだということですね。分かりました。松浦委員、いかがでしょうか。

【松浦臨時委員】　今やはり話を聞いていても、部会長が説明されたのを聞いても、ちょっと私は理解できないのですけども、理解できないところが、基準に達していない人を採用してまでというような表現をされているのですが、さて、その基準がどうなのかというところは分からないわけで、定員があって、わざわざそこを目指して来ているわけですから、その基準をどうするのかというのも含めて、もう少し検討する余地があるんじゃないかなというふうに思います。それで定員に達するだけの方を入学させていくということも必要なんじゃないかなというふうに思います。意見ですので、回答は要りません。

【野川部会長】　ご意見として承りました。海技教育機構の方、おられましたでしょうか。何かもしご意見があればと思いましたけれども・・・、よろしいでしょうか。はい。ご意見として確かに承りました。ありがとうございました。

【平岡臨時委員】　部会長、関連で。平岡です。

【野川部会長】　平岡委員、お願いします。

【平岡臨時委員】　先ほど、これまでの状況として合格者のうち併願等で辞退する人数については、大体３０人から５０人という話がありましたが、昔は補欠などの二次募集が

あったと認識しています。ただ、もう最近はそういうこともやっていないという話ですが、約２倍から３倍の応募者数があって、約半分あるいはそれ以上の方が漏れているということを考えると、合格基準などについては、松浦委員が言うように、もう少し柔軟な対応が必要ではないかと思います。入学者数の定員の枠を割るというのはいかがなものかと思います。その点についてはもう少し柔軟な対応も必要だと思いますので、ご検討のほど、よろしくお願いします。

【野川部会長】　ありがとうございました。ほかによろしいでしょうか。

それでは、時間もたちましたので、この件についてはこれぐらいにいたしまして、議題２に移らせていただきたいと存じます。議題２の審議事項である「船員派遣事業の許可について」でございますが、本件につきましては、個別事業者の許可に関する事項であり、公開することにより、当事者等の利益を害するおそれがありますので、船員部会運営規則第１１条ただし書の規定により、審議を非公開とさせていただきます。マスコミ関係の方をはじめ、関係者以外の方はウェブ会議からご退出をお願いいたします。

非公開での審議となりますので、関係者以外の方全員がウェブ会議から退出しないと議事が始められませんので、ウェブ会議からのスムーズな退出にご協力をお願いいたします。

（非公開・関係者以外退席）

【野川部会長】　本日意見を求められました諮問につきましては、「別紙に掲げる者に対する船員派遣事業の許可について、許可することが適当である。」という結論とすることとし、海事分科会長にご報告したいと存じますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、これで本日の予定された議事は全て終了いたしました。ほかに何かございますでしょうか。事務局お願いいたします。

【富田労働環境対策室長】　事務局から１点ご報告をさせていただきたいと思います。

船員部会臨時委員で使用者委員の中島委員におかれましては、交代によりまして、今月の部会をもちまして退任される予定となってございます。本日はご欠席のため、ご挨拶をいただけず残念ではございますが、ご紹介をさせていただく次第でございます。

中島委員におかれましては、令和元年７月の第１１４回船員部会以降、２年間にわたりまして使用者委員としてご尽力を賜りました。中島委員のご尽力に対しまして、深く感謝の意を表したいと存じます。

以上、ご報告です。

【野川部会長】　　ありがとうございました。ご本人はおられませんけれども、長い間大変ご苦労さまでしたという感謝の意を私からも表したいと存じます。どうもありがとうございました。

ほかに何かございますでしょうか。なければ、事務局よりお願いいたします。

【岡村労働環境技術活用推進官】　　次回の船員部会の開催日程につきましては、部会長にお諮りした上で、改めてご連絡させていただきます。

事務局からは以上でございます。

【野川部会長】　　それでは、以上をもちまして、交通政策審議会海事分科会第１３７回船員部会を閉会いたします。本日はお忙しいところ、委員及び臨時委員の皆様には会議にご出席いただき、ありがとうございました。

―― 了 ――